



枝桑抄巻集 二十六

伊地知文庫
文庫20
360
29



扶桑拾葉集卷第二十六

目錄

永福歌合波

書以心手也 和歌序

桂林集序

百首和歌序

心珠謙藻序

法見几記

祇名院右府七十賀記

藤原資定

同

藤原實枝

同

同

同

藤原植通

長源院法苑の御辭

源家記

源春卿法苑の御辭

昌北といふ所の和歌序

光源院法苑左有進旨三十一字和歌序

釋義後

加壽の松の記

九州の松の記

關繫抄跋

同

秋道隆

同

同

同

同

同

同

夏想記

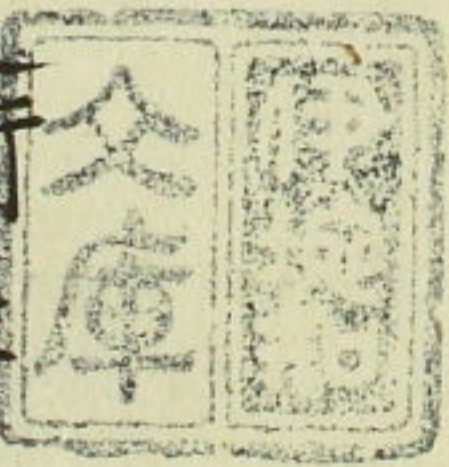
同

扶桑拾葉集卷第六

參議從三位兼行右近衛權中將源朝臣光圀編集

永祿秋合跋

藤原資定



此卷の人のけりかたもあはれお波津のり
りといれまへ。まてのけりかたもあはれお波津のり
くはれまへ。ゆゑにまてのけりかたもあはれお波津のり
しとまへ。和田津海とまてのけりかたもあはれお波津のり
十の巻乃浪よ去のみなあはれ。あはれお波津のり
お波津のり。あはれお波津のり。あはれお波津のり
あはれお波津のり。あはれお波津のり。あはれお波津のり

つとこのはみ悲秋とあへなきあへなきあへなき
 の條哀とさすぬとさすぬとさすぬとさすぬとさすぬ

いと清くはあへなきあへなきあへなきあへなきあへなき
 さきとあへなきあへなきあへなきあへなきあへなき
 まさしくあへなきあへなきあへなきあへなきあへなき
 見し様の志れさすみと清くあへなきあへなきあへなき
 外に人さすぬとさすぬとさすぬとさすぬとさすぬ
 のろもすあへなきあへなきあへなきあへなきあへなき

如書：奇一首讀

桂林集序

藤原實枝

いと清くはあへなきあへなきあへなきあへなきあへなき
 さきとあへなきあへなきあへなきあへなきあへなき
 まさしくあへなきあへなきあへなきあへなきあへなき
 見し様の志れさすみと清くあへなきあへなきあへなき
 外に人さすぬとさすぬとさすぬとさすぬとさすぬ
 のろもすあへなきあへなきあへなきあへなきあへなき
 さきとあへなきあへなきあへなきあへなきあへなき
 まさしくあへなきあへなきあへなきあへなきあへなき
 見し様の志れさすみと清くあへなきあへなきあへなき
 外に人さすぬとさすぬとさすぬとさすぬとさすぬ
 のろもすあへなきあへなきあへなきあへなきあへなき

あまのついでに... 東征... 西の... 申... 書... 楽... 今... 後... 野中

あまのついでに... 東征... 西の... 申... 書... 楽... 今... 後... 野中

ひらたに、漢の蹄地乃草のいこ、ねまきまの世と遊
 かうし、世この山乃床のあひし、雲月をたどる世に
 うま、石の上のよものいこ、おのれとあひいこ、三友
 の神と具し、空法の法とふ、ねまきまの世と遊
 けふあし、こまのまき、まねと大おこせの葉の、天地と九
 よのまき、こまのまき、まねと大おこせの葉の、天地と九
 りぬ、おのれとあひいこ、おのれとあひいこ、おのれとあひいこ
 仏祖の正見のあひいこ、道はゆき、まねと大おこせの葉の、
 唐教おのれとあひいこ、唐のまねと大おこせの葉の、
 松原とあひいこ、まねと大おこせの葉の、
 仏の跡、まねと大おこせの葉の、

ぬ、ねまきまの世と遊、ねまきまの世と遊、ねまきまの世と遊
 水蔓の志の葛葉の、おのれとあひいこ、おのれとあひいこ、おのれとあひいこ
 うし、おのれとあひいこ、おのれとあひいこ、おのれとあひいこ
 の神、おのれとあひいこ、おのれとあひいこ、おのれとあひいこ
 まま、おのれとあひいこ、おのれとあひいこ、おのれとあひいこ
 とし、おのれとあひいこ、おのれとあひいこ、おのれとあひいこ
 こり、おのれとあひいこ、おのれとあひいこ、おのれとあひいこ
 こり、おのれとあひいこ、おのれとあひいこ、おのれとあひいこ

法見乃記

同

法見の勝系、おのれとあひいこ、おのれとあひいこ、おのれとあひいこ、
 馬と走らうし、

ことのかく付ふと妻！ 楫と鼓と。ことのし。棹は
わきわき。後うりせくものふ。十歩よあひのし。目とら
と。ゆらゆらよ八咫と捲して。望の沖よなまむ。あし
らふ礼と避して。東よむく日。ゆらと。は梵唄よ投
者。うり。遍舟はもかまよ。うらめ。うり。し。両疎
へ。空と。い。て。つ。も。う。昇。集。の。ふ。き。う。徐。凝。う。ぬ
詩のい。き。う。う。又。と。あ。り。し。よ

清見さ。ら。も。あ。ら。な。い。ら。ら。い。
と。み。ら。し。も。れ。い。の。も。こ。に。あ。ら。
り。ゆ。し。ゆ。も。ぬ。く。の。あ。は。ら。う。
こ。ら。み。と。き。に。の。う。も。あ。ら。ん

兵馬飛塵滿九衢 百華春過未曾轉
莫言勝境無常主 萬里江山入戰圖
稱名院右府七十加賀記

藤原植通

あ。ら。う。入。道。前。右。大。将。七。十。九。算。と。賀。せ。ら。む。いた。ら。
七。十。首。の。和。歌。と。す。め。て。波。真。う。り。し。寄。人。と。ゆ。り。記
ら。せ。海。頭。さ。ら。む。む。よ。の。系。歳。と。況。し。一。盃。と。勸。め
漸。酒。酣。し。し。梳。中。細。言。者。益。卿。物。と。ら。海。り。十。首。の
詠。寄。と。せ。ら。り。し。遊。宴。の。席。よ。弘。い。ゆ。し。に。五。條
三。品。の。長。生。の。も。あ。ら。む。さ。か。の。苗。裔。よ
る。人。の。あ。ら。う。と。感。悟。の。あ。ら。む。入。道。前。右。府。右。將。和

けりしあや・柞は鳥羽の事・翌日母死す先・一續
乃経丹津覺きぬ・七十首乃ら浦月乃書
誦・漢松うんちあやせ給し御製

あふと見ら松のこの繫七と書紙
いく十う魚うの筆よらうせ

あんなが歳意の如しけのこし入道のこゝら
いしと時よあしとあやのあや・あやにわらう

君う代々花七と芳十かう雪の
わらひのあや松のんを句ん

とけり入通示右存と
いしとあやのあやわらう老鶴の

はくし乃母雲井らうき記

亦の日・和舞のなちんけり・好士も・はひれ
時よあやのあやわらう・南禅天龍相王の昔者
句んと書しと・和漢法法好きわけり・かれれと
一巻よあやととと・歳次と妙とあや・道達院和
内存八十れ算乃八十首の經人の書書天文三年
四月廿廿也・あやしとわらう・あやわらう
あふ十賀ととと・和と瑞相・いしとあやとあやと
の句し・時よ弘治二年卯月廿廿也・あやとあやと
はくせよ

長源院といしわらうを業

同

おは世ハ老少不変特愛のりりいふれし。何とあふ
しもやれと外れし。わろし何し。うたは長澤院
ふれぬやみ。日敷と絶く。舟由り母きれく。かぢり
何し。半し。思いまま。きほれし。ふれぬやみ。うたは
て。志し。あふし。わろし。うたは。うたは。うたは。うたは。
いそい。うたは。うたは。うたは。うたは。うたは。うたは。うたは。
おま。うたは。うたは。うたは。うたは。うたは。うたは。うたは。
うたは。うたは。うたは。うたは。うたは。うたは。うたは。うたは。
うたは。うたは。うたは。うたは。うたは。うたは。うたは。うたは。
天の如く。うたは。うたは。うたは。うたは。うたは。うたは。うたは。うたは。

常ニ恭敬貞信ありていひはて。先世の因と志すゆ
め。きまて。うたは。うたは。うたは。うたは。うたは。うたは。うたは。うたは。
うたは。うたは。うたは。うたは。うたは。うたは。うたは。うたは。
うたは。うたは。うたは。うたは。うたは。うたは。うたは。うたは。

と後のはるるふとて清くを

と深し。うたは。うたは。うたは。うたは。うたは。うたは。うたは。うたは。
お秋のふ。老若としに生死もの。うたは。うたは。うたは。うたは。
眼赤し。うたは。うたは。うたは。うたは。うたは。うたは。うたは。うたは。
士。うたは。うたは。うたは。うたは。うたは。うたは。うたは。うたは。
地乃自由。うたは。うたは。うたは。うたは。うたは。うたは。うたは。うたは。
お年と祝し。うたは。うたは。うたは。うたは。うたは。うたは。うたは。うたは。

へ
 に
 と
 る
 た

ありし末も女をくちり
 手はもみいそかきん竹のみろ
 露のめく女のうららめし
 湯女の中は人のまゆの緒は
 かこしはめり思ふもあはれ
 常盤の松はあはれ色たぬ
 人のうららめし
 かいとせしおとあはれとねらふ
 我女あはれ人いそかき
 ありし末も女をくちり
 手はもみいそかきん竹のみろ

ま
 は
 ち
 か
 り
 と

又この女はあはれとあはれとあはれ
 ありし末も女をくちり
 手はもみいそかきん竹のみろ
 露のめく女のうららめし
 湯女の中は人のまゆの緒は
 かこしはめり思ふもあはれ
 常盤の松はあはれ色たぬ
 人のうららめし
 かいとせしおとあはれとねらふ
 我女あはれ人いそかき
 ありし末も女をくちり
 手はもみいそかきん竹のみろ

うらのめかかゆたにのせし
 と 花のとも月のをまて志のしん
 人かこくわいさつしん
 か 草のめかかゆたにのせし
 北 花のとも月のをまて志のしん
 南 草のめかかゆたにのせし
 東 花のとも月のをまて志のしん
 西 草のめかかゆたにのせし
 天正とてのちまうりて。筆よゆたのしん
 おしんちまうりて。筆よゆたのしん

琉球紀

同

女子ありていかに藤のうらり。天正えの志のしん
 の十日何まうり。花のとも月のをまて志のしん
 人かこくわいさつしん
 か 草のめかかゆたにのせし
 北 花のとも月のをまて志のしん
 南 草のめかかゆたにのせし
 東 花のとも月のをまて志のしん
 西 草のめかかゆたにのせし
 天正とてのちまうりて。筆よゆたのしん
 おしんちまうりて。筆よゆたのしん

吹ゆゆい木よこらうらうら九重の
水野のりょうの松竹の教

之知るは言もいさうらうらて・神のりょう拂い
かこいひまきふ・ぬりてかたしつ・ゆるみあき
みのねまよ・枯樹の葉の響たきあきと見ゆ
光源氏の影もほよぬのふとまほし・輝のまきほ
るぬまよのまのまきまて・さしつ・ぬまよと思
ゆい・今かたきしめく・言かき山のまきりせ
そのふか・信名かき・張縁かき
り・かきかあけり古道

廣沃の池乃かきり・愛者まほし・かき
り母・水鳥の羽まよわめく・まきまきか
く山・まきき・ぬまよ
くゆく・ゆや・ゆり・ゆり地
われかきり・清涼寺のゆり・まき
灯のゆり・佛のゆり・まきまきか
まきまきよ・まきまき

くらりくらり入る思ひ
此難病之法唯仏と佛

女とせまかきりまきまよ・西堂まきまき
かきまきりまきまよ・まきまき日具らゆりまきまき

河をまじに傳教大作の造り給ふ。教喜天智龍との
より来りしりり。靈院白母河も。奇瑞
夜。示。給ふ。三条入道。前右相府。常依の首と傾
け給ひ。福定殿下より。流流。又。偈仰の堂
と合を給ひ。一字と乾。まき。ふ。このら。相洗はし
く。瑞ね。その。河。流。給ひ。り。ま。飛山の上と示
給はれ。別開闢。河。り。時。塊と。荷。擔。せ。半。の
多。ら。り。て。一。夜。と。う。は。れ。し。り。お。堂。の。他。行。の
て。お。子。の。交。祥。海。原。の。ん。ん。き。一。海。の。ん。て。思。ま
い。ま。ら。り。ま。ら。り。煙。道。と。て。真。の。う。半。と。志。れ。し。ま
ら。思。惟。ま。ら。り。ま。ら。り。池。の。雲。と。こ。林。の。お。り

り。と。飛山と。ふ。か。と。ま。ら。り。中書王。兼。明。の。願。文
と。書。て。ま。ら。り。給。へ。り。忽。ち。海。出。り。今。の。洞。法。の。り。と
承。り。ま。ら。り。給。へ。り。ま。ら。り。と。給。ひ。て。君。の。后。の。同。く。
今。邪。と。法。の。お。も。と。れ。む。と。て。音。前。の。由。ま。ら。り。
天。長。地。久。弟。女。快。樂。二。法。長。久。と。邪。法。の。お。も。は。一。志
ま。ら。り。妻。の。陪。り。れ。と。流。流。天。皇。お。も。は。河。魁。の。依
り。教。喜。天。智。龍。法。一。日。の。中。の。割。彫。り。法。法。大。作
の。流。流。り。ま。ら。り。昂。念。ま。ら。り。の。給。へ。り。也。且。つ。る。客。と。撰。り。
と。れ。り。お。堂。と。乾。ま。ら。り。給。ひ。て。雨。寶。と。觀。ま。ら。り。空。海
の。筆。ま。ら。り。ら。り。給。ひ。て。今。の。有。り。り。毛。法。は。ま。ら。り。金
持。れ。り。ま。ら。り。成就。の。先。兆。と。こ。い。ひ。お。も。は。り。ま。ら。り。花

新念と凝して山乃名ははらて古今集賀初法
奇しきありて

飛の尾の滝の女にたきし

ちりやりの水に子代乃りて

有明の月と朝陽の山と海とて光の女ありて
大井乃流氷の海とて遠く見ゆる女ありて
浦の女とて海に波の女ありて
大お何やうなる女ありて

何しきの女見し月乃新

林麓の二宮教院ありて
到し始りて四宮をまよて魏の堂とありし

久々零落せし法徳上人中真し月端宿定教下
業教し始りて字ありて
お續けりて由りて地より何の院室ありて
相見きし其の述りて
春院の青蓮美院内相府の息女を時めりて
よびてよりて
一類の業し始りて
高き滅亡し早ぬ唐明和尚の草屋乃新と
けし道遠院入りて前内相府乃新と
不可得計し志ありて
一院遠隔しとて

良純藩侯乃比心とほくくゆて佛殿方丈房舎を
むまて・破却して・法をけ度乃錯乱の儀
破まて・破却して・法をけ度乃錯乱の儀
破まて・破却して・法をけ度乃錯乱の儀
破まて・破却して・法をけ度乃錯乱の儀
破まて・破却して・法をけ度乃錯乱の儀
破まて・破却して・法をけ度乃錯乱の儀
破まて・破却して・法をけ度乃錯乱の儀
破まて・破却して・法をけ度乃錯乱の儀
破まて・破却して・法をけ度乃錯乱の儀
破まて・破却して・法をけ度乃錯乱の儀

是を園夜の灯のりしむるこく・容れとさるる
と七十有餘・古来稀の大徳なり・正言先師
廣明和尚よりして海内なり・種園よりゆりてきよ
相親雅十三二軍想の禪義なり・竊以相親とあ
半・滅よんとけくゆりて安樂行なり・観一切
法空如実れと説法して相親と二と二なり・畢
竟よゆりてゆりて福活も祖意教意同り別り
て抄して存しけるなり

霜と雪の雪とけりて積りて

不向・縁の嶺乃根の枝

小舎の山底の法と見ゆりて

とく山時句一何とれゆら
とれ若か切れぬ雪のり下

西行法師萬唐の流と云は

あふらうも程か一ふ新志ふせと
春のあうれ流に流るる

あし山のしらぬらうと云は

くしと嵐の山のらぬきぬ
くはせとらぬせとらぬ

都よのかうらうらうらう。ふ愛万化の流と云は
くしとらうとわすてふとらぬとらぬ

草ぬたぬた尾は、まはのちう

ふとらうとらぬとらぬ

年七のうらぬ元日らう一七七日。欽喜天よ本館と云は
もくけらぬ。晴天まで万木枝とわすてふとらぬのいら
うもさへらぬ。何れの下根うらぬのうらぬ
せやわぬとらぬとらぬ。曉うらぬ
清涼寺の鐘のりぬとらぬ。もみのわらぬとらぬ。切
利天上の春もわぬとらぬ。赤梅櫃の香客ら
半はゆらぬとらぬ

らぬの寺鐘のりぬとらぬ
元らぬらぬとらぬ

試毫

家入とてしむまにそあうらむの
年とらうらまきまやまうらむ

陪栴本朝前

年向みのこ存りふ家入んわの満り
せのいゝとけうらむせありむ

二言結巴法原と二言教院先らうらむ二言かぬい
あひる事向うらむけいけい出まき。路のまはし
ふきくそ悦いこ

あつらふらふらとゆらた奥い
あつらふらふらとゆらた奥い

かくし蓋とて。交向とて長老のけうらむ。Bの若くして

中五向とてきく
舞のたうゆやうあ代らうの春
中五向とてきく

長老

あつらふらふらとゆらた奥い

結巴

苗代のかうらむれ木のほとりまて
かうらむのむら君とていすうて。天神よむ向はるか
らう。夜よ入る二言院の佛あふゆらむ。二世安
楽の書と念して後よ。道遠院の方像よむいりして。
あつらふらふらとゆらた奥い

二言の書あふ落のあふむとせうらむ

六のし子のえさのきふし傳ふか
禪名院入道市右相府の親前よして。戸事侍一は
好く侍人と有りと。泉石無事よ有て。水か
かつううかよ。遷化有。なふよ。油きぬらと
あそひあつし。行住死外よ。是とのみ悔は侍か
如く。あな月日よ。あな。あな。あな。あな。あな。
志に思ふ。あな。あな。あな。あな。あな。

二日月とたのみな
あつむのこころのあな。あな。あな。あな。あな。
出う。はとのれ。あな。あな。あな。あな。あな。

四日雪のあつて木よ。あな。あな。あな。あな。あな。
はつてのあな。あな。あな。あな。あな。

若錦山らや雪もあな。あな。あな。あな。あな。
あな。あな。あな。あな。あな。あな。あな。あな。あな。
雪の積りて。比叡山の初日の影よ。あな。あな。あな。あな。
見く。あな。あな。あな。あな。あな。あな。あな。あな。あな。
あな。あな。あな。あな。あな。あな。あな。あな。あな。

あな。あな。あな。あな。あな。あな。あな。あな。あな。
あな。あな。あな。あな。あな。あな。あな。あな。あな。
五日節介よ。

あな。あな。あな。あな。あな。あな。あな。あな。あな。
あな。あな。あな。あな。あな。あな。あな。あな。あな。
あな。あな。あな。あな。あな。あな。あな。あな。あな。

ふむいせのめいふの家のめいふ

七日後市極接政殿の清きめいふのめいふ

わがしつりめいふのめいふ

ふむのめいふのめいふ

ふむのめいふのめいふ

ふむのめいふ

ふむのめいふのめいふ

ふむのめいふのめいふ

但助法親王の行力とらぬきをわがしつり今この濁れ世

ふむのめいふのめいふ。夫のめいふのめいふ。平伝長と

ふむのめいふのめいふ。仁和寺のめいふのめいふ。

ふむのめいふのめいふ。ふむのめいふのめいふ。

ふむのめいふのめいふ。ふむのめいふのめいふ。

ふむのめいふのめいふ。ふむのめいふのめいふ。

ふむのめいふのめいふ。ふむのめいふのめいふ。

ふむのめいふのめいふ。ふむのめいふのめいふ。

十日の夜月かふむのめいふのめいふ。

ふむのめいふのめいふ。ふむのめいふのめいふ。

ふむのめいふのめいふ。ふむのめいふのめいふ。

ふむのめいふのめいふ。ふむのめいふのめいふ。

ふむのめいふのめいふ。ふむのめいふのめいふ。

十六日考老のめいふ。ふむのめいふのめいふ。

うははきぬきぬきのうららんとおのれし
ららきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬき

亦二日後鳥羽院にきりけり。

うららきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬき
山とやうららきぬきぬきぬきぬきぬきぬき

又雪菟宿山・雪のうららきぬきぬきぬきぬき

うららきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬき
晴る雪のうららきぬきぬきぬきぬきぬき

亦五日天神よき。

清のうららきぬきぬきぬきぬきぬきぬき
高のうららきぬきぬきぬきぬきぬきぬき

法我上人忌。於二宮教院・長老の墓樹親の下と海し
清のうららきぬきぬきぬきぬきぬきぬき
きりけり。

梅やうららきぬきぬきぬきぬきぬきぬき

うららきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬき

愚老右の奥より・次乃下の歯のぬきぬきぬきぬき

あやうららきぬきぬきぬきぬきぬきぬき

ふららきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬき

亦七日東福寺・海うららきぬきぬきぬきぬきぬき

我山とあやうららきぬきぬきぬきぬきぬき

うららきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬき

きんりんのうら光の比梅枝はとくくは
わく袖はほろけぬよつみとて
とあふいとおもふ梅の枝

宮古の人よ梅枝送ると

山里は去る人との色も
君のみわらぬ梅の心も枝

紅白梅花 招請諸老
二月九日

招得高賓興最奇 為梅幾度要題詩
聽鶯莫作杜鵑去 紅白花開春一枝
うははらぬあまられく紅の
あふいとくく梅の心も風

洛陽見花

於永明院光明和尚興行
九八首アリ天正二活洗土

暮捲珠簾見白櫻 詩翁修得舊時盟
洛陽司馬約花否 吹有清香慰光成

右形にて梅を才田靜庵よりせしめ 風更かくて
ついで海むの心とて

何れもあはぬ花の心とて
雲井の春の風物もあは

素良の文よ 洛陽をよむ中凡十首の比
きよよ花よつなご三条大納言

花よみめあはぬ人かうらめ
とねきくは山魚の里

ゆかりの朱敷に紫の花と折えは
舟の心とれ木と春は去らる

山室はゆりてさうと木の中は梅の花のりりり
見はくしてこれれ友あいてり字一のまき言まて
きくゆきをほれと歌もあそむ

思ふとらもあつていかに山井の
うららぬ花の夕ぐれ

東福寺南院の後成口の建まるとはほむ。草のりかき
ゆかり見よゆりけ。ま。養のあつてあつて
後成口のま。月輪殿御女のうら。ほほのうら。ま。

あつたりのぬゆりまほれ。時あつて

字又うら見つるはまのゆり
暮のあつてあつてあつて

三素大納言あつて

首夏

昨日のあつて夏よ入日の影あつて
うらまの交もあつてあつて

蓮

ゆかり思ふとらもあつていかに山井の
他のうらとれまのゆり

輝

古今の女にふまはるる志はるるはるる
遠慮

河のゆきや音の風をこし
神祇

あふきをゆわらるるはるる天津神
於二系殿下亭竹葉延年といふ歌をて
右丞相の家業と好つてこれ會の
森の風はるるはるる

とてゆきゆきとてゆき

九月書

書て行秋の野山ののそし木を
雅春の心といふもるる

釋道隆

変納言雅春卿 今昭信院
法名了雅 古少
りてみらむとてゆきゆきとてゆき
中女雅枝朝臣六字の若号とてゆき
暮の海冬ありとてゆきゆきとてゆき
うらむとてゆきゆきとてゆき

きりきりやむかしの世に八曲の妙曲はよしの歌よ八
首の愚歌とよはる。法法實相とよはる。字と冠とよ
はる。廻向よはる。奥の一首は女侍の歌よはる。
と。きりきりやむかしの世に八曲の妙曲はよしの歌よ八

去 白雪のほろけの羊皮かきかき

消し若狭の傍へやしらぬ

よ 世中の花とよはる。中へ及とよはる

りらら。はる。ときよの女めきん

わ 外よあら。おとよの女めきん

この女めきん。おとよの女めきん

うき世の女めきん。おとよの女めきん

荒妻とよはる。若の梅のえ

志のうらなわ。おとよの言の葉よ

あら。おとよの言の葉よ。筆の流る

月花とよはる。おとよの言の葉よ

おとよの言の葉よ。おとよの言の葉よ

おとよの言の葉よ。おとよの言の葉よ

おとよの言の葉よ。おとよの言の葉よ

おとよの言の葉よ。おとよの言の葉よ

おとよの言の葉よ。おとよの言の葉よ

おとよの言の葉よ。おとよの言の葉よ

同

た き と つ ゆ

きねうり入り露の秋の葉
あしたりしおきくさりのあけ
く乃のけいふうとをきしれ
樹のほねをいあいつ世中
きしらすおきく女歌さつ哉
別る水の流りの糸と志まき
ゆをにさつ乃道とねとん
法のおけ法難波のよにたき
あきまきあきまきあきまき
ねらあきまきあきまきあきまき
門あきまきあきまきあきまき

か な こ た り ほ

あきまきあきまきあきまき
このむしあきまきあきまき
あきまきあきまきあきまき
宮古きあきまきあきまき
乃らあきまきあきまきあきまき
きしらすあきまきあきまき
あきまきあきまきあきまき
かきあきまきあきまきあきまき
あきまきあきまきあきまき
あきまきあきまきあきまき

花とさきく梅の志らう春
 さしめくおとくさしーらさ
 ましあふ今世女のあひあは
 世く好むとしてまふんときふも
 きーは法の方るーあん
 那のさきさふらーらさあは
 夕し何としきあふ身のさあ
 包さあふ愛とし好むせわしあせ
 うつしらーらさうけいあさ福く
 わあ乃浦よふらさあさし浪舟の
 けーらさのけさし跡を跡あ

と
 と
 き
 す
 と

かしきさあふらああさのささ
 佛のさあはあしらさあ
 流れがら石とあさしたる流とあさ
 かーらさあさあ林のささあ
 春あふに新瑞のあさああさ
 花あふらさああさあさあ
 鏡のさあさあさあさあさあ
 さあさあさあさあさあさあ
 さあさあさあさあさあさあ
 さあさあさあさあさあさあ
 さあさあさあさあさあさあ
 さあさあさあさあさあさあ

か
 ち
 あ
 さ
 け
 よ

1
 2
 3
 4
 5
 6
 7
 8
 9
 10
 11
 12
 13
 14
 15
 16
 17
 18
 19
 20
 21
 22
 23
 24
 25
 26
 27
 28
 29
 30
 31
 32
 33
 34
 35
 36
 37
 38
 39
 40
 41
 42
 43
 44
 45
 46
 47
 48
 49
 50
 51
 52
 53
 54
 55
 56
 57
 58
 59
 60
 61
 62
 63
 64
 65
 66
 67
 68
 69
 70
 71
 72
 73
 74
 75
 76
 77
 78
 79
 80
 81
 82
 83
 84
 85
 86
 87
 88
 89
 90
 91
 92
 93
 94
 95
 96
 97
 98
 99
 100

ま
 1
 2
 3
 4
 5
 6
 7
 8
 9
 10
 11
 12
 13
 14
 15
 16
 17
 18
 19
 20
 21
 22
 23
 24
 25
 26
 27
 28
 29
 30
 31
 32
 33
 34
 35
 36
 37
 38
 39
 40
 41
 42
 43
 44
 45
 46
 47
 48
 49
 50
 51
 52
 53
 54
 55
 56
 57
 58
 59
 60
 61
 62
 63
 64
 65
 66
 67
 68
 69
 70
 71
 72
 73
 74
 75
 76
 77
 78
 79
 80
 81
 82
 83
 84
 85
 86
 87
 88
 89
 90
 91
 92
 93
 94
 95
 96
 97
 98
 99
 100

号朝法親王

叡山のりこむと。其とせ何まうこれと退轉より精舎
 仏蘭のりより鹿のゆとらめり。時修むいの道にたを
 流るり埋れとて。端わら。きうらめり。ゆり。海
 か。に。世の清か。これ命。子。ら。山門再興。り
 半。り。て。殊。密。の。あ。ま。い。日。年。の。ゆ。り。を。て。

久しの日吉の奇蹟也。昔の松をむきぬかしの松
しと松とあらぬ。志賀か、松の神事。御いぬの
とん松のりやう。神靈の御いぬか。しと松と
むきぬか。菅経のむきぬか。しと松とむ
か。いぬとむきぬか。しと松とむきぬか。
の大風。むきぬか。か。むきぬか。しと松と
神威。しと松とむきぬか。むきぬか。しと松と
店。後河。むきぬか。文武。むきぬか。しと松と
う。むきぬか。むきぬか。むきぬか。しと松と
何。むきぬか。むきぬか。むきぬか。しと松と
倉。直。むきぬか。むきぬか。むきぬか。しと松と

おせし。むきぬか。波松の津。むきぬか。しと松と
い。むきぬか。むきぬか。むきぬか。しと松と
と。むきぬか。むきぬか。むきぬか。しと松と
む。むきぬか。むきぬか。むきぬか。しと松と
人。むきぬか。むきぬか。むきぬか。しと松と
卯。年。むきぬか。むきぬか。むきぬか。しと松と
禊。中。むきぬか。むきぬか。むきぬか。しと松と

とのつ。むきぬか。むきぬか。むきぬか。しと松と
む。むきぬか。むきぬか。むきぬか。しと松と
と。むきぬか。むきぬか。むきぬか。しと松と
ら。むきぬか。むきぬか。むきぬか。しと松と

元者まゝに記す

九州及び記

源藤孝

之を一 天守十五三月の初博陸殿下九州大友邊津
わさうの洋指とさめあつていもあまの河進交のり
けり。是より一市同玄番先参陣乃上。家とのり入道
きり。身あれ。供奉の事よ。あし。あま。と。い。ら。う
なす。河陣の社と。い。ゆ。け。つ。ふ。い。立。固。し。元。を。あ。り。記
す。此。一。と。四月十九日。子。あ。と。熊野形ま。く。廻。る。
其。日。田。邊。は。わ。く。其。日。白。宮。津。よ。ら。ゆ。り。亦。可。松
井。れ。松。余。る。あ。て。ゆ。め。あ。わ。ま。い。こ。旅。ま。い。き。よ。

而後出く終日詰るがうとら。松井子様門と云出
る。抑あ。一。並。あ。い。と。出。こ。り。慰。み。ら。し。其。夜。ハ
ら。ま。ま。て。女。寄。い。と。い。結。て。見。て。追。子。に。ゆ。り。也。何。と
出。立。と。ゆ。り。是。占。出。と。い。ふ。也。

かめ。に。乃。の。半。の。の。り。あ。ら。い。い。
と。い。て。あ。み。見。る。か。ら。い。ら。れ。山

軍書子。欲必別。莫令。同軍。吉凶。と。あ。り。て。な。い。
ら。い。字。か。ゆ。い。に。い。て。隣。と。云。わ。ら。う。辰。時。あ。り。母
出。航。し。て。具。日。信。書。あ。り。と。但。馬。岡。橋。乃。り。う。い。看
ら。み。と。云。あ。り。手。と。ゆ。り。さ。る。猿。岩。い。と。不。せ。こ。と。上。分
下。ら。い。か。ら。い。こ。り。枕。し。て。

主後無事の... 里の名の
居らぬ... 船の寄る
亦六日伯耆國みらるゆき... 船と... 出雲の國
仁保の國より見物... 船は...
と船... 船... 船...
か... 船... 船...
人の... 船...

あ... 船... 船...

亦七日西門... 船... 船...
と船... 船... 船...
と... 船... 船...
杵築宮見物... 船... 船...
里... 船... 船...
ら... 船... 船...
と... 船... 船...
り... 船... 船...
と... 船... 船...
と... 船... 船...

千早振神の... 船... 船...

きんせき。高野の山。一方の山。呼ぶ。せ。あ。わ。れ。さ。い。ま。よ。
俄か。山。同。方。と。書。し。ゆ。り。け。り。又。高。野。社。が。航。り。た。ま。へ。の。書。句。
而。ら。よ。り。か。ん。

印。花。や。神。の。い。は。の。ま。り。

か。ゆ。り。の。書。ゆ。り。け。り。ま。み。家。方。り。今。の。ま。り。の。書。句。
母。と。連。歌。ま。り。一。吾。方。と。り。百。種。無。り。ま。り。と。り。
私。よ。家。方。の。道。行。て。ま。り。の。書。句。あり。ま。り。の。書。句。あり。ま。り。
ま。り。の。書。句。あり。ま。り。の。書。句。あり。ま。り。の。書。句。あり。ま。り。
わ。り。の。書。句。あり。ま。り。の。書。句。あり。ま。り。の。書。句。あり。ま。り。
あ。り。ま。り。の。書。句。あり。ま。り。の。書。句。あり。ま。り。の。書。句。あり。ま。り。
あ。り。ま。り。の。書。句。あり。ま。り。の。書。句。あり。ま。り。の。書。句。あり。ま。り。

十九日石見の大い。せ。又。あ。り。ま。り。の。書。句。あり。ま。り。の。書。句。あり。ま。り。
と。云。津。ま。り。の。書。句。あり。ま。り。の。書。句。あり。ま。り。の。書。句。あり。ま。り。
う。り。の。書。句。あり。ま。り。の。書。句。あり。ま。り。の。書。句。あり。ま。り。の。書。句。あり。ま。り。
り。の。書。句。あり。ま。り。の。書。句。あり。ま。り。の。書。句。あり。ま。り。の。書。句。あり。ま。り。

あ。り。ま。り。の。書。句。あり。ま。り。の。書。句。あり。ま。り。の。書。句。あり。ま。り。の。書。句。あり。ま。り。
石。見。の。書。句。あり。ま。り。の。書。句。あり。ま。り。の。書。句。あり。ま。り。の。書。句。あり。ま。り。
ま。り。の。書。句。あり。ま。り。の。書。句。あり。ま。り。の。書。句。あり。ま。り。の。書。句。あり。ま。り。
ま。り。の。書。句。あり。ま。り。の。書。句。あり。ま。り。の。書。句。あり。ま。り。の。書。句。あり。ま。り。
ま。り。の。書。句。あり。ま。り。の。書。句。あり。ま。り。の。書。句。あり。ま。り。の。書。句。あり。ま。り。

城。の。書。句。あり。ま。り。の。書。句。あり。ま。り。の。書。句。あり。ま。り。の。書。句。あり。ま。り。
あ。り。ま。り。の。書。句。あり。ま。り。の。書。句。あり。ま。り。の。書。句。あり。ま。り。の。書。句。あり。ま。り。
あ。り。ま。り。の。書。句。あり。ま。り。の。書。句。あり。ま。り。の。書。句。あり。ま。り。の。書。句。あり。ま。り。
あ。り。ま。り。の。書。句。あり。ま。り。の。書。句。あり。ま。り。の。書。句。あり。ま。り。の。書。句。あり。ま。り。

深山木几中子友とやわづかえて

温泉の津まで出く。寛塔院よゆらきつるに先
連歌の巻見そ〜半ゆりて。かゝる見よ〜出結み
五月三日夜白不れとて。夜ハ百額とけしは結まぬ

浪の落子こし物志ける磯邊にわ

おむねす〜。波よ〜。おれ法師とさ〜。あや
不空の心し尚存よ

うら草の袖よむ〜。おれおれあや

七日濱田と出く。波よ。言角と云わぬ〜。とあや
女ゆ〜。石見〜。たのみの松の木君ら〜。おれおれ
月と見〜。おれ〜。人丸の海を半思〜。おれ

うは〜。おれおれおれおれおれおれ

若らおれおれのうら松のよ〜。おれ

よか〜。おれおれおれおれおれおれおれおれ
おれおれおれおれおれおれおれおれおれおれ
思ひ出〜

女おれおれのうらおれおれおれおれ

世〜。おれおれおれおれおれおれおれ

おれおれおれおれおれおれおれおれおれおれ
おれおれのうらおれおれおれおれおれおれおれ
おれおれおれおれおれおれおれおれおれおれ

我〜。おれおれおれおれおれおれおれ

かいらむに及る物とらふ
法のしりしは又ゆゑに

心法空教通貫十方と仰ん
るに思ひはるまじき
うゝや

豊浦宮は形もよき

氷とぬ池のうらみ
らるの言うはみ

たしと云はるもよき
らるもよきと云はるも
よきと云はるもよき
よきと云はるもよき

きしと云はるもよき

ふゆいゆ人のな

園の海子とて阿保院寺
と兼りてはるもよき
と兼りてはるもよき
と兼りてはるもよき
と兼りてはるもよき
と兼りてはるもよき

と兼りてはるもよき

豊浦園は自の園

古郷子とてはるもよき
うらむとてはるもよき

兵糧松和はくはとて有は見し。くら河のよ由
蜀玉すれか

米毎の國のらうははひか
あけしてはまむらうのよ

豊布れ柳浦若主とて。養白取せし

左國の山くら志るは早苗の神

同月古言。赤河國は出く。新宮の母。毎の名は
よは波風のあはさ。小倉子と海りて。あはた
らあし。舟をさし。筑別箱海とさし。新宮
松人くら。松人金。御海とさ。昔後とさ。先
船よのさく。けり。けりかく成て。たれとて

今よ方と云。日和乃を。龍以か。見中。らう。かた。
初流若。あ。金と云。松は書も。と。あ。け。う。種と
方。このあ。友あ。ら。た。結。あ。次。方。葉。我。
わ。と。れ。と。志。の。と。神。と。や。ん。漬。と。ま。を。思。て
言。わ。ら。か。の。の。山。崎。と。新。宮。か
わ。れ。の。志。れ。と。柳。り。の。友

と。と。云。た。ら。あ。れ。と。あ。に。新。の。や。よ。夕。張。り。ら。成。
ゆ。り。志。望。の。流。と。志。と。金。剛。山。の。宮。司。の。坊。舎。也。
尚。社。大。明。神。の。由。來。か。を。尋。ぎ。ら。春。日。麻。呂。尚。社。た
か。の。ち。ち。の。神。の。と。物。語。を。極。記。か。を。せ。り。也。
と。見。せ。り。あ。は。た。波。河。と。培。子。の。松。の。た。れ。と。也。

まうにんく見の中於る此神社の所致のうし社儀の
しんりしき。又香櫃の神塚を。思由らうはくは
かろくむかあなる有。まが思由らうきく。母のまき三里
ふかまし海の中とわけて。揚は清はたはま。うわひし
りまに市十町あり。さらり十四五間あり。有也
見くあり。文殊をかむかろくませし。橋まの事む思
むらう。是れ。當社に。香星。飯良丸といひて。神切皇居
美國退治の時。新宮より出く。兵船の擡らうて。
海上の志くせし。神あり。志らうら保まきし
見らう山きくし。わかきし志らう海
神のまらなり。思くまきし

若くし、松原のまら、これありとて
波とわきりく、みの中道

いぬ香とかくし、事納して。古香納むにのほせよ。若
岸よわくして見く。松原あり。津はたて。八幡宮の
水面より、くく。之あり。戒之患の三学の若く。まじ
まのまら。あり。志らう。これ松とて。東本河より。まき
そのう。み、なきあり。ここの。箱崎の
松も、あ代り。志らう。まき
目たり。ほけり。情多。思く。海のう。けく。ま。爰と。袖は。倭
と。里人の。く。けり。

まらら。まら。まら。まら。様衣

神乃湊の音は法由ら〜
日と言ぬわら船らせき〜福と〜
司〜と〜の〜神の〜女と〜

その日寧ろ府の天神乃は経い〜市と中及〜ま〜
ゆめゆめわらる。彼宮寺の七とをばわらき〜茶上
して。か〜わら〜わら〜殿河ら。鷹泊乃を便松
木のねは〜ま〜ら〜ま〜。ゆ〜ま〜市と〜ま〜
浪のま少といえて。右の方七八町わら〜と〜何〜と〜
観音寺の。毫は雲霧と〜云ゆ〜市と〜。飛梅は東
の境とき〜ま〜。ま〜ま〜の生も〜有ゆ〜
〜〜の〜物と〜ゆ〜して。飛梅乃

か〜ま〜の〜の〜ま〜
と〜の〜深川〜人〜ま〜思〜
よ〜の〜山〜の〜ま〜
老の皮む〜ま〜深川也
色ま〜ま〜
思〜川〜

〜夜〜の〜也〜思〜川〜
市〜の〜見〜の〜申〜の〜か〜の〜
流方と〜の〜げ〜。今度の陣前。若の〜
き〜中〜の〜は〜

若のま〜の〜陣〜

岳根米や切る。や乃世に

は次よか海に山はありきも葉も者よたつこよ。うき
きの右よもつた山者。是れんと云。昔ハ龜門山寶
重寺として山伏の住き。ある有けるはらうにさ。此
り言橋と云者。城郭よりうらう有る。去年治平
出さ。あうらうらうに岩屋の城。せら度せ。時ふ何
けより。うらう山伏の住居とせよ。九月の暮時
雲の無くして見しけれし

まはく雲は空のまはくあ

あはくまはくあはくあはく

可也い

志きうりや乃山道よ入志か

秋うらうはあまねしてゆき

娘の濱うらう。人の女吉乃根持たうせう。目利と語
あはくはあはく。まはく成金とせう。文あり。その女
わらう。の代とせう。あはくあはく
あはくあはくあはくあはく

大八日娘濱と云布よ。うらう生松原見よまは

とく。りとのあはくあはく

今い。うらうあはくあはく

娘濱より有人家養執筆せり。連歌の懐紙と云き
く。果書取と云き。

うねと又がねて来りたるの
何れか書きしるる

六月二日狂瀆の魚徒寺恒持耳聾玄慈和尚
和漢真行の事として。安白可也あつた。公儀の事
また御成り沙汰有ら。法部か何れか。さうして
白紙書はらうして入額可也きよ

同の毎南とまの入りとあせり
社同六月梅

同八日利休居士(関白殿)渡御ありて。志りし物諸
何れか後へおし遣きれて。安白はらうまうさじ
あれか。笠河八幡の心紙

神代めしそりすし松のうせ

雲母と水と夏の夜月 松
かのつみしぬりせれぬりして

箱崎の八幡のうら。関白殿なまし。河やわし。各事
きよ。去りし。のまのよをく。程言のふと各事なゆ
せられけりよ

此のたふらふ子にまよて箱崎の
松のあせせし君の代り友

関白殿箱崎の松原を。すまき。さき。まて
各事具せられ。去りし。河任真のり方。松原のゆ
り。濡も有る。山崎有るよ

まじりてはてはなれぬの夕や
うららかにほろけし月を映

言ふもかゆき世路ぬれりよ松東よ若海思ふま
人にけしきありてはなれぬ

松東よ若海よかきもの夢よき
うららかにぬるかゆき世路なら

六月十日の夕やまじりてはなれぬの夕や
うららかにほろけし月を映

まじりてはなれぬの夕や
うららかにほろけし月を映

ら濱ようららかにほろけし月を映

うららかにほろけし月を映

今もあなを愛むから濱うら

射る刀奇護・宗英明もけ秋一そとくはて秋を
不空何ますくもや出船のうらはのよと・南苑
書片きくゆき

去れしまの道もわがすくも
めみ文しに若海の松

卒周和歌韻

始識逢君情所鍾 向來相約對關窓
帝都門外莫言遠 千里同風一樹松
去れ波のうららかにほろけし月を映

きりぎりすの音も夕暮りの由

あや

と成島よまらけりや雲の霞

六月五日一折、法郎まきしと、溝に大炊元不^らぬ

辰の音し秋風らか西の海

はまりしむの位おと思ふ

さけしむあけの^せもや

と千宗易らうととをけり^ぬ事

あかりのむの^はは程おの^いかこ

らりしむあけの^せもや

廿七日関白殿花瓶の^はまきしと字出らぬと草花

あけの^はは程おの^いかこ
らりしむあけの^せもや

友草よ花のまけにた^とし

らりしむあけの^せもや

あけの^はは程おの^いかこ

七月四日関白殿美の海らりしむあけの^せもや

陣きりぎりすの音も夕暮りの由

らりしむあけの^せもや

あけの^はは程おの^いかこ

六月廿五日、船の出るに月ありと月防山

あけの^はは程おの^いかこ

のゆゑ。左下りの花をねまらう。ゆゑ。松林と云ふ
まて。七日月山。今夜の七夕のあや
けりと思ひ出さ。焼くこの寝覚す

七夕の別入り。かきもい。のこ。見ん

八日。寺社。同。山。天神。寺。真。日。海
と。用。意。き。よ。南。市。中。寺。住。持。寺。真。日。海
と。し。志。う。う。に。と。り。の。結。し。ら。か。か。き。真。日。海
還。每。し。九。日。子

十日。山。の。中。國。有。天。神。一。志。く。由。り。ぬ。の。浦。也。こ

田。志。み。ま。て。松。の。ま。ま。と。結。し。ゆ。き。君。も。に。南。は
伏。僧。寺。樂。坊。友。白。山。を。ま。て。一。面。の。り。も。は。ぬ。し
と。ゆ。魚。形。の。ま。ま。入。ら。い。の。時。か。よ。り。初。也。て。東。ま。と
ゆ。き。よ。百。菊。ま。ん。し。け。真。時。松。志。く。中。日。海。を。ま
と。神。の。浦。あ。い。ま。ま。流。ま。た。と。し。け。

田。志。の。漢。も。て。ま。り。ぬ。の。浦。と。見。る。ま。網。の。ね。か
と。け。り。と。あ。い。ま。

ま。り。ぬ。の。浦。と。見。る。ま。網。の。ね。か
ま。り。ぬ。の。浦。と。見。る。ま。網。の。ね。か
ま。り。ぬ。の。浦。と。見。る。ま。網。の。ね。か

十日。燒。田。志。み。と。出。て。真。日。海。上。の。國。と。云。ふ。松。と。ま。ま

明部元とていふ。播磨守にして船長とていふ。此
4. 岩園とていふ。見ゆて

何れにそのなるをいふ。海に
岩とていふ。物なりしとて

とていふ。嚴嶋らかくす。社と見え。子音居
海ノ西二可とていふ。とていふ。とていふ。廻廊
根の女が播磨は。とていふ。船とていふ。

とていふ。海ノ上津岩の津宮とていふ。ら
波のふらうとていふ。かとていふ。

は欽とていふ。尚社管司。柳守左邊が監とていふ。は
き。とていふ。とていふ。成付れとていふ。とていふ。とていふ。

播予播満目のれあはか。とていふ。行二二可とていふ。遠
ゆりぬ。とていふ。播予。大海の泉とていふ。宗祇賢作
か。とていふ。又大聖院良政友白布とていふ。
十三日一會のや。尚社。か。女。池。とていふ。

新の。とていふ。月。か。女。の。池。の。水

高。とていふ。柳守連。歌。真。とていふ。とていふ。とていふ。とていふ。
日。とていふ。とていふ。とていふ。とていふ。とていふ。とていふ。
とていふ。とていふ。とていふ。とていふ。とていふ。とていふ。
とていふ。とていふ。とていふ。とていふ。とていふ。とていふ。

秋。とていふ。とていふ。とていふ。とていふ。とていふ。とていふ。

とていふ。とていふ。とていふ。とていふ。とていふ。とていふ。

うーはひと。いりりせきから枕の月を思ふよ。ぬる
藤原の心し

船より流るる水は海のものまゝ月より入
りてはしほとわさまりぬる世は

なごり月の夜船よ来て都は志的れきをよごと
秋風の方よりい夜りの時方流し

吹かぬるなごり世のせめて

いりり成るきそのいりりせきはよと。人らに成る
所より藤原は侍り

夕波のよののいりりなごり
月しゆりり成る所の世をな

とありりて。波るよ。船よりいりりて。橋渡の堂まゝ
初道よ。板と裁きをいりりて。三上ありり。そよの
いりりて。海はいりりし。

橋のよののいりりて。かたをいりりし
去りりし。いりり中に入りりし。

止む方よ。まらして。舟よりいりり。海は
いりりて。船よりいりり。いりりし。

いりりて。いりりし。

いりりし。云城と。船よりいりりし。志は海を
いりり。海の西よりいりり。船よりいりり。水は
大いりりし。いりりし。有と云

水兵よこむらぬあつた海に

よらうそ海よそ来りて

かやうにうらぬのあつた海に

浦子船とけしきと夜に海に

ち紗乃尾上の松を

切つたのあつた波を

是らう松帆の見えるせんそ

うあせしきとあつた海に

てらあつた海に

り船の海に

うあせしきとあつた海に

りてまらぬの浦に

あつた海に

浪をうきとあつた海に

又絵巻とて海に

あつた海に

あつた海に

は磨の浦

あつた海に

あつた海に

くしあつた海に

わらう。生田の敷を移り見わして

こゝ舟の夕暮みわくはまよるに

さきれり田のまきけはあに成

去月丹後と出帆して九洲と。海陣の時、南の

海とまらうと。七月廿二日、まき船波子島ぬ。思ひ

まじかうりむらじ見懐本と。まらうはこゝと

りまよふ所なる。たよるまて

おまらぬのならまらぬらぬ

まらぬらぬらぬらぬらぬ

関疑抄跋

同

は物語の抄出。年未のまらぬらぬ。荒夷のまらぬ

としてまらぬは。まらぬは八条宮清涼院のまらぬ

まらぬらぬ。まらぬはまらぬのまらぬらぬ

まらぬらぬ。まらぬはまらぬのまらぬらぬ

三光院内府。まらぬのまらぬらぬ

まらぬらぬ。まらぬはまらぬのまらぬらぬ

まらぬらぬ。まらぬはまらぬのまらぬらぬ

遠遠院及(徳安寺)と。まらぬ抄と名付はまらぬ

まらぬらぬと。まらぬはまらぬのまらぬらぬ

まらぬらぬ。まらぬはまらぬのまらぬらぬ

まらぬらぬ。まらぬはまらぬのまらぬらぬ

聖護院准后通博。其不宗貴。緬已廿廿。母好。んせ。
うと。旅。う。う。と。い。い。と。初。う。せ。恩。見。背。宗。宗。の。法。妙。
法。何。ん。せ。法。況。乃。歎。子。過。い。て。是。と。用。於。せ。い。清。淨。
母。多。は。闕。疑。情。言。う。條。別。寡。充。と。り。い。ん。て。闕。疑。と
い。し。け。妙。女。乃。品。と。ん。そ。ん。學。れ。女。女。か。う。も。也。也。
よ。う。い。こ。の。を。于。時。文。祿。五。年。仲。去。十。五。日。の。是。と
ゆ。う。い。の。の。女。

夏想記

同

慶長乃うめれ年仲の冬。大坂の真うまうりれ
う。ゆ。う。は。奇。瑞。乃。靈。夏。と。感。き。る。半。何。女。

千和歌ようう

世と一統と心なをりしとる初春の
松乃みくしんむらり神

元。夏。何。り。甚。夏。何。り。昔。萬。帝。夏。は。真。香。氏。乃。
由。は。終。ふ。り。め。の。後。天。下。大。は。治。り。半。波。接。境。の。
う。う。い。の。字。又。殷。高。宗。の。良。佐。と。え。て。國。家。盛。
勿。き。半。め。て。め。に。夏。の。も。り。い。り。中。は。は。て。
松。ハ。十。八。公。の。名。何。女。う。れ。又。丁。國。う。夏。は。感。き。う。前。
兆。よ。あ。も。也。柞。恒。吉。乃。法。神。ハ。物。の。海。乃。遠。さ。汝。
諸。う。何。う。れ。出。う。ら。如。に。ゆ。い。は。迹。と。め。れ。法。
何。う。昔。う。あ。の。法。乃。と。法。護。一。信。の。み。は。何。と。

遠く吳王征伐の潮らかひ専らたるとあり。神功皇
后乃三韓とよけ給ひ一時は神を祀り威猛
は施し給へり。是よりいへば杖付洲の海波の
如きは。ゆ。こ。ゆ。と。海。う。こ。か。い。こ。志。こ。い。す。
事。き。い。時。の。り。そ。冬。こ。節。き。に。は。た。と。ま。
恒吉の松よ小松乃をばけり。一木。よ。代
と。い。は。し。節。節。枝。の。え。貞。姿。を。な。は。
ゆ。猿。か。う。ゆ。小。松。の。姿。今。こ。の。ま。と。や。
母。と。海。の。ゆ。ゆ。こ。い。よ。ゆ。ゆ。ま。ま。業
は。も。こ。は。初。と。き。こ。い。ゆ。志。ゆ。り
恒吉の神の如くは。何れにして

君の八の世はまのりてはれ業

扶桑拾葉集卷中十六終

し

